



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イラク、シリア：「イラク・イスラーム国」と「ヌスラ戦線」統合（続報）

10日、インターネット上で「ヌスラ戦線」指導者のアブー・ムハンマド・ジャウラーニーの演説ファイルが出回った。演説は、9日に「イラク・イスラーム国」が発表した「イラク・イスラーム国」と「ヌスラ戦線」の統合についての内容である。

演説の要点は以下の通り。

- 自分達は「イラク・イスラーム国」と「ヌスラ戦線」との統合の話で相談を受けていない。この発表が本物ならば、自分達が相談を受けるはずである。
- 自分達は「イラク・イスラーム国」の下で活動していたが、シリア情勢の展開を受けてシリアに進出した。
- 「イラク・イスラーム国」からのジハード諸派の昇格（注：9日での「イラク・イスラーム国」の発表ではジハード諸派の統合・再編を意味する）には応じる。
- 「ヌスラ戦線」は、アル＝カーイダのアイマン・ザワーヒリーに忠誠を誓う。ただし、忠誠表明によって「ヌスラ戦線」は政策変更をしない。

この要点から分かるとおり、今般の演説は、9日の「イラク・イスラーム国」の発表を明確に拒絶するわけでも、同派の発表を受け入れるわけでもない、不明瞭な内容となっている。また、自らが「イラク・イスラーム国」の傘下で活動していたことを認めたものの、「ヌスラ戦線」という別個の団体であるかのごとく述べて改めてザワーヒリーに忠誠表明を行うという、アル＝カーイダの組織上の文脈での相互関係を混乱させるような宣言をした。「ヌスラ戦線」が「イラク・イスラーム国」の傘下、或いは一部であるならばこのような忠誠表明は不要であり、「ヌスラ戦線」という新規の団体として忠誠表明を行うならば、「ヌスラ戦線」は「イラク・イスラーム国」から独立した別個の団体としての立場を表明したことになる。さらに、「ヌスラ戦線」は忠誠表明によって自らの政策が変わることはないと表明し、9日の「イラク・イスラーム国」の発表にあった組織の名称や旗の統一を拒絶するとも取れる立場を示した。実際、同派は今般のファイルを発表するにあたり、「イラク・イスラーム国」のロゴではなく同派の既存のロゴを使用した。「ヌスラ戦線」がこの様な態度をとった理由としては、現在のシリアの反体制派諸派の相互関係や、反体制派を軍事・財政・人員面で支援する諸外国との関係の文脈で、自らが「イラク・イスラーム国」の一部であると認知されることを不利益と考え、対外的な認知の改善を図ったことが考えられる。

しかし、より重要なのは、今般の演説で「イラク・イスラーム国」の声明内容に疑義が示されていることである。イスラーム過激派、特にアル＝カーイダの関連団体や活動家は、一定の経路・手法を通じて声明類を発表しており、9日の「イラク・イスラーム国」の声明もこうした手続きを通じて流通した。このため、中東調査会イスラーム過激派モニター班もこ

の声明は「本物」であると判断して分析した。今般の「ヌスラ戦線」の態度は、イスラーム過激派のシンパや彼らの観察者の間で相応の信頼性を確立していた声明類の発表の経路や、そうした経路を通じて出回った情報の信憑性に打撃を与えることにつながりかねない。実際、イスラーム過激派が利用する掲示板サイトの読者達の中の世論は、9日の「イラク・イスラーム国」の発表に対する全面的な歓迎から、「イラク・イスラーム国」か「ヌスラ戦線」の発表のいずれかが虚偽である可能性についてのコメントや、両派から矛盾する情報が発表されたことに対する困惑へと一転した。また、「ヌスラ戦線」がザワーヒリーに対し、「イラク・イスラーム国」との組織的関係を整理することなく忠誠表明を行った上、「忠誠表明はするが自派の政策は変えない」という態度を表明したことは、ザワーヒリーとしても対処に困る内容となろう。これまでのイラクやマグリブの事例では忠誠表明を行った団体が名称を変更しており、ソマリアの「シャバーブ運動」についても、今般のようなある意味で自己中心的な忠誠表明をしていない。

今般で回った2つの声明により、「ヌスラ戦線」がアメリカをはじめとする諸国からテロリストと認識されている集団と同一、ないしは不可分の存在であることが明らかになった。これにより、シリアの反体制派を支援している諸国などは、反体制派に提供される資源の少なくとも一部を「テロ支援」として摘発せざるを得なくなる局面が予想される。また、「ヌスラ戦線」が「イラク・イスラーム国」による統合宣言を否定・拒絶するかのような態度をとったことにより、イスラーム過激派諸派の相互関係や、イスラーム過激派による広報活動の信憑性にも深刻な悪影響が出る可能性がある。特に「ヌスラ戦線」の忠誠表明により、錯綜した状況に巻き込まれる形となったザワーヒリーも対応に苦慮することとなろう。ザワーヒリーは、これまでシリアで活動する武装勢力について特定の団体名に言及しないなどして、混乱を極めるシリア情勢への直接的・組織的関与を避けてきた。しかし、今般のやり取りにより、イスラーム過激派のシンパの間でザワーヒリーが「イラク・イスラーム国」と「ヌスラ戦線」との相互関係や、アル＝カーイダ自身とこの両派との関係に何らかの判断をすることへの期待が生じており、ザワーヒリーがこの点について長期間立場表明をしなかったり、アル＝カーイダ関連団体の相互関係の文脈で不適切な立場を表明したりするようになれば、自らの地位や威信も損ないかねない。いずれにせよ、このやり取りはイスラーム過激派の広報活動の信憑性と、アル＝カーイダと関連団体間の相互関係に混乱や打撃をもたらすものであり、これに関与した全ての主体にとって百害あって一利なしの結果に終わることが予想される。このため、一連のやり取りをイスラーム過激派に敵対する国家や機関による工作であると仮定することもできるだろうが、これを立証することは極めて困難であろう。

イスラーム過激派モニター班